



新入生歓迎式

6月15日(月)新入生歓迎式を行いました。校長講話のあと、新入生代表が「新入生の言葉」を読み上げ、新入生歓迎式は終了しました。新入生歓迎式終了後、担任紹介と学年主任の挨拶、生徒会行事として、生徒会会長の挨拶、生徒会から新入生へ花の贈呈、新入生代表の挨拶が行われ、最後に校歌を聞きました。



新入生歓迎式講話

校長 中山 哲也

梅雨の合間の青空の下、皆さんによりやく伝えられる言葉があります。

「41期生の皆さん入学おめでとう。ようこそ芥川高校へ」

この言葉でやっときちんとした形でのスタートを宣言できた気がします。

4月、本来、入学を祝福されるべき日に、皆さんはどんな夢を抱いていたのでしょうか。『初心、忘るべからず』と言いますが、今一度、夢を思いおこし、しっかりと胸に刻んでおいてください。

今日から全校生徒がそろった新しいカタチで始まる学校生活に対して、皆さんの心の中には期待と不安、また喜びと緊張に溢れているのではないのでしょうか。

そんな皆さんに、私から新しいスタートに向けて二つのお話をします。

まず、宮澤草二さんの「青春前期の君たちへ贈る心の詩」から、表題になっています「行為の意味」という詩を紹介します。

あなたの「こころ」はどんな形ですかと人に聞かれても答えようがない
自分にも他人にも「こころ」は見えないけれどほんとうに見えないのだろうか
確かに「こころ」はだれにも見えないけれど「こころづかい」は見えるのだ
それは人に対する積極的な行為だから同じように胸の中の「思い」は見えないけれど「思いやり」はだれにでも見える
それも人に対する積極的な行為だからあたたかい心があたたかい行為になりやさしい思いがやさしい行為になるとき「こころ」も「思い」も初めて美しく生きるそれは人が人として生きることだ

宮沢さんの詩は、「こころづかい」や「思いやり」という美しい気持ちは、行為に移すことによつて、はじめて意味をなすものであるというメッセージを贈っています。皆さんのこころの中には、やさしさがあふれていると思います。そのやさしい「こころづかい」や「思いやり」を、行動としておこすこと、言葉として発すること、家族・クラスメイト・先輩・先生方・つまりこの芥川高校につながるすべての人とともに、やさしく美しい学校生活を送ってほしい

と願っています。

二つ目のお話は、皆さんへの質問です。これから言う話を聞いて、自分なりの答えを出してみてください。

ある高校生が、世界的バイオリニスト、マキシム・ヴェンゲロフ氏が来日した際、対談する機会がありました。その高校生は氏に「私もあなたのようになれますか?」という質問を投げかけました。すると氏は「今から5年間1万時間練習するつもりで臨めばいいよ。」と答えています。1日も休まず毎日5時間半の練習となります。

この言葉を聞いて、みなさんはどう考えますか? 5時間半なんて無理だと諦めるのか、それとも私にもチャンスがあるのだと捉えるのか、この生徒は「励ましてもらいました」と答えています。心から応援したくなる素晴らしい答えだと思えます。みなさんも、自分で自分の可能性を閉じ込めないでください。みなさんの可能性は無限なのです。

皆さんには、やさしい「こころづかい」「思いやり」に満ちあふれた、すばらしい高校生活を送るとともに、この芥川高校で、夢を見つけて、自分自身を信じ、努力を積み、夢をカタチにして欲しいと願っています。私たち教職員も皆さんとともに歩みます。ほんとうにおめでとう。



教職員人事異動のお知らせ

新着任・再任用

4月1日付で本校に着任した教職員です。

転出・退職

3月31日付で本校から転出・退職した教職員です。